

今年、選挙権が十八歳以上の人に与えられて、私は初めての選挙を経験しました。そして、感じたことがあります。それは、選挙に高校生は必要な存在なのかという疑問です。

そう思った理由は、高校生が社会的な環境に全く接点がないと考えるからです。学校に登校し授業を受け、放課後は部活動に励み帰宅するといった、一般的な高校生の日常に、日本の社会状況が分かるような瞬間があるのでしょうか。また、そういった日本社会と隔離した状況の中で高校生の関心が社会問題に向くのでしょうか。大切なのは日本社会に対して一人ひとりが理想や希望、または疑問を持つことだと思います。現在の状況では、それらを抱くのは難しいと思います。

しかし、高校生という今まで有権者でなかった存在が有権者になったことは、新しい日本社会を創っていくきっかけにつながると私は考えています。高校生の新しい発想や考え方が、社会に提出されることで大人たちの関心も高校生に向くはずですが、そこには先に述べましたように高校生の日本社会に対する関心が必要になります。関心を持つには社会的経験が重要であると考えます。高校生と日本社会の距離を縮めるのです。そうすることで、高校生ならではの意見も出てくるのではないのでしょうか。

私は、私が描く理想の日本社会を心の中に持っています。それは、フィリピンに海外ボランティア活動にいたり、地域ボランティア活動に参加したりという社会的経験を得て思うところがあったからです。今回の選挙は高校生に選挙権を与えただけであって、社会について高校生が考える理想は表に出ないままになっています。高校生と社会の距離を縮めて、もっと社会的経験をさせるべきだと思います。そうすれば、一人ひとりの高校生の日本社会に関する理想が表現できて、日本は未来に向けて新たな一歩を踏み出せるのではないのでしょうか。